

CAGLIERO 11

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.50 - 2013年2月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



サ

レジオ会員の皆さん、サレジオ・ミッションの友人の皆さん！

この4年間続けてきたように、今月も「カリエロ11」をお届けします。今回、本紙は50号を迎えました。

多くの友人たち、「カリエロ11」の制作に貢献してくださった皆さん、いまま貢献してくださっている皆さん、体験を語ってくれる

宣教師、忍耐強く、たゆみなく取り組んでくれる編集者、すばらしいレイアウトをしてくれるデザイナー、そして、各国語に訳して

くれる多くの翻訳者の皆さんに、心から感謝

を申し上げます。イタリア語、スペイン語、英語、フランス語、ポルトガル語、ポーランド語、中国語、韓国語、クロアチア語、日本語、ベトナム語、オランダ語、チェコ語、スロバキア語に訳されています。

4年たった今、カリエロ11の多くの実

りを見ることが出来ます。その簡潔な形、**毎月11日に必ず出ること**、生き生きとした

宣教師体験のあかしがあることから、サレジオ会員とサレジオ家族のさまざまな

メンバーによって13か国語で読まれ、喜ばれています。カリエロ11は、サレジオ会共同体の生活の一部になってきています。共同

体の食堂の冷蔵庫に貼ってあったり、多くの共同体や養成支部で夕の祈りの読書に活かされたり、**ボナノッテで紹介され**

たり、その体験記事がボレッティーノや管区ニュースレターに転載されたり、あるいはただ毎月、宣教促進担当者や管区秘書か



ら各支部に送付されています。これを読んで、自分の宣教召命を発見する第一歩になったサレジオ会員もいます。

“Gioventù missionaria” (1970年代初めまで刊行された、サレジオの宣教を紹介したジョヴェントゥ・ミッシオナリア誌)の好循環が今もあります。若い宣教師は開かれた心で、率直に、生活の体験を分かち合います。宣教の生活のすばらしい美しさを知ることは、若者やサレジオ会員のうちに宣教の意識を目標めさせます。物語を語ることは、さらなる生きた宣教の物語を生み出します。

カリエロ11の課題は今も同じです。カリエロ11はまだ、すべての共同体に届いていません。それは4年前、第1号が発行され

たときの夢です：「このカリエロ11の目的は、世界中のすべてのサレジオ会共同体に声を届け、少なくとも月に一回、mission ad gentesに遣わされたすべての宣教師を私たちが思い出し、彼らのために祈ることです。彼らのことを思い出しながら、私たちは、自分たちが皆『若者の宣教師』になるように呼ばれていることを思い起こします。」(2009年1月)

今日、そのために何ができるでしょうか？

まず、カリエロ11の配布：新たな送付先の住所を下さい。あるいは宣教の体験を送って

ください。カリエロ11を皆さんの共同体のためにプリントして貼り出す、あるいはホームページやフェイスブックにリンクを載せてください。いちばん良い助けは、共同体の祈りでカリエロ11を活用することです！

Václav Clement

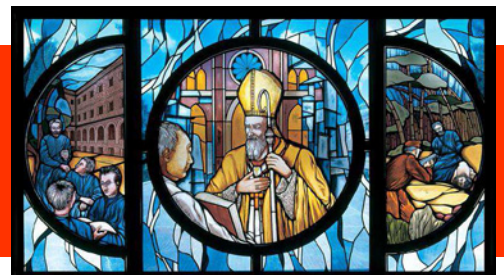
宣教顧問
ヴァツラフ・クレメンテ神父

2013年2月25日

祝日

サレジオ会殉教者の初穂

聖ルイジ・ヴァリアラと聖カッリスト・カラヴァリオ



Video

vimeo: <https://vimeo.com/57513662>

<http://www.missionidonbosco.tv/video/1353/gms-2013-interview-to-father-g>



できることはわずかでも……聖霊は働いてくださる

私の宣教師の召命が生まれたのは、何年も前、私が13歳のときです。それ以来、多くの変化があり、いろいろなことを考え直してきました。しかし、夢は残りました。そして初誓願の前日、管区長と話したときに宣教師になる望みを伝えたのを思い出します。その15年くらい後に、再び管区長と話しました。管区長は待つようにと言い、その間、ある共同体の院長と教会の主任司祭を務めることになりました。とうとう、2年前に、私はアゼルバイジャンに派遣されました。

ローマとトリノでの新宣教師研修コースは、自分のそれまでの経験を後にし、祈り、宣教地へ出発する前にさまざまなことを学ぶのを助けてくれました。研修コースは、サレジオの宣教の霊性の空気を呼吸し、宣教師たちと出会い、特に宣教顧問と対話する機会になりました。またほかの新宣教師たちと知り合い、私たちは一緒に、偉大な宣教師パウロのローマでのゆかりの地を、またサレジオ会の聖地を訪れました。霊的日記を継続的に書くようにという勧めは、このコースで得られた貴重な贈り物だと思っています。

ここアゼルバイジャンで、私はいくつかの挑戦を前にしています：新たな文化、新たな宗教的状况、新たな言語です。カトリック教会の活動範囲は非常に限られています。1930年代に共産主義政権下で最後のカトリック司祭が処刑されてから1997年まで、この国には教会もなく、カトリック司祭もいませんでした。カトリック教会の存在は、外国人および、移住者とその子孫である地元の人々のためとして、許容されています。人々はイスラム教を信仰し、いかなる使徒職も許されません。教会を訪れる人だけが、キリスト教について耳にすることができます。典礼は、ロシア語と英語で行われます。地元の言葉は全く異なるものです。文化もやはり全く異なり、イスラム教と深く結びついています。ほとんどの人が神を信じていますが、自分たちの宗教についての知識は非常に貧しいものです。

2000年以来、サレジオ会共同体はバクーにあります。300万人ほどの町です。約200人の外国人と100人の地元の信徒が教会に来ています。しばしば、キリスト教に興味を持って、あるいは助けを必要とするために教会を訪れる人がいます。若いカトリック信徒は少数です。新宣教師研修コースで教わったように、ここの文化に十分に溶け込めるまで何年もかかるでしょう。しかし、忘れてはならない最も大切なことは、人々の心のうちに働かれるのは聖霊であるということです。この事実は、私たちが実際にここでできることがたとえごくわずかであっても、毎日、私を喜びと希望で満たしてくれます。

宣教師になることを考えている若いサレジオ会員に伝えたいことは、宣教召命は神様からのすばらしい贈り物だということです。同伴してもらいながら識別をした結果、この賜物を発見したなら、前向きに応えることによってあなたの人生は喜びに満たされるでしょう。イエスがマリアの人生を喜びで満たしたように、そして若者がドン・ボスコの心を喜びで満たしたように！



スロバキア出身、アゼルバイジャンの宣教師
ウラジミール・バクサ神父

アジアに新たな宣教師を求む

管区-国	言語	環境、必要とされている資質
CIN 中国	英語、 中国語、広東語	若い会員の力によって管区を助ける(マカオ、香港、台湾)。 修道士の若い召命。
FIS パキスタン	英語、 ウルドゥ語	会員は少ない。困難なイスラムの環境。技術系教育。 しっかりした会員の召命。修道士、養成担当者を求む。
ITM インドネシア、東チモール	英語、インドネシア語、 ポルトガル語、テトゥン語	50歳以上の経験ある養成担当者、 霊的指導者、聴罪司祭、技術学校で働ける専門家。
INC バングラデシュ	英語、 ベンガル語	新しい宣教地(2009年設立)。2か所の拠点。 志願院・修練準備期の学校、農村・少数民族の地域の小教区。会員は少ない。
INC ネパール	英語、 ネパール語	若い宣教地(2000年設立)。3か所の拠点。 福祉・教育事業。ヒンズー教の環境。南アジア以外の出身者を求む。
LKC スリランカ	英語、 シンハリ語、タミール語	内戦に引き裂かれた国。 南アジア以外の出身者、特に修道士を求む。
SLK使徒座知牧区 アゼルバイジャン	ロシア語、 英語、アゼル語	カトリック信者は地元出身者600人と移民3000人。 穏健なイスラム教。サレジオ会員の共同体を国際化する努力(スロバキア人だけでなく)。



サレジオ会の宣教の意向

アフリカ地域-特にコンゴ民主共和国のため

アフリカのサレジオ会員とともに、特にカテケジスを通して、信仰教育の道を歩む若者たちのために。和解の福音を受け入れ自分のものとすることによって、社会を建設し、和解を育みつづける、和解した教会を築く人となりますように。



私たちの暮らし働くアフリカの環境で体験される大きな文化的・民族的多様性を前にするとき、特に若者たちの間で分裂や対立に傾く誘惑は、時として、とても強いものです。忍耐強く提案される福音的なゆるしの歩みをたどる道は、若者たちにとって困難なものです。しかしそれは、真の成長発展のための確かな道です。アフリカの若者は、対話と平和のための新たな道に挑戦するその創意工夫の力で、しばしば私たちを驚かせてくれます。